

まとめ

ダイナックス都市環境研究所
会長 山本耕平

15



それでは最後、ちょっと10分か15分ぐらい、総括的なことを申し上げたいと思います。もともにごみをどうしようかということで始まった多摩リサイクル市民連邦の活動なのですが、あれからもう30年ぐらい経ちまして、ずいぶんいろいろな状況が変わってきました。いくつかそういうトピック的なこととお話をして、これからどういことを考えていかないといけないのかなということを、最後にお話をしたいと思います。

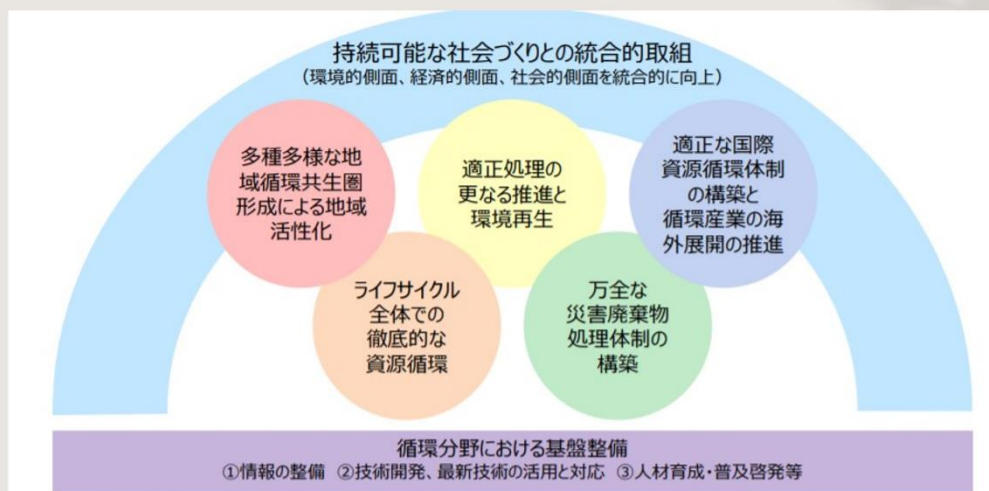
この市民連邦ができたのは、1992年ですね。TAMAらいふ21というもともと神奈川県に属していた多摩地域が東京都に移管されて100周年というその記念事業の一

環として、合宿して一晩中ごみのことを語るという、世にもまれなイベントをやりました。場所はよみうりランドだったかな。市民や自治体の職員、いろいろな企業の人、研究者、学生さんなど大勢の人が泊まり込んでですね、いろいろな分科会を作って、徹夜でごみ談義をするというのをやりました。私はそこの事務局みたいなことをやっていたのですが、そういうことをきっかけに、そこに集まった人たちでこの「東京・多摩リサイクル市民連邦」というものを作りました。お亡くなりになった寄本先生が提唱をされて、ずっと代表もされておりましたが、発足いたしました。

その時はまだ容り法もできていない時代ですね。最初のリサイクル法（再生資源の利用の促進に関する法律）が制定されて廃棄物処理法が改正されてリサイクルについての規定が設けられましたが、まだリサイクルに片足しか掛かっていないような時代でありました。それから、90年代というのは、多摩地域ではまだ二ツ塚処分場のことがいろいろ議論になっていた時代でもありますし、焼却施設の建て替えを巡る問題もいろいろありました。施設を広域的に集約する問題もありました。その頃はまだ、「ごみをどう適正に処理するのか」ということが一番大きな関心事でありました。その中で多摩地域の自治体と市民はいろいろと努力をして、全国では今の時点では非常にリサイクルの進んだ地域でありますし、一昨年この場で申し上げましたが、オリンピックがあったらぜひ多摩を売り出そうと。ごみに関心のある人は、先進国ドイツに行くとか、どこかに行くとか、いろいろ見学してきて、あの都市はすごいリサイクルが進んでいるなということをお土産に持ち帰ってきたことがよくあると思いますが、ぜひ海外の方に多摩地域の取り組みを見てもらおうと。それぐらいやってもいいのではないかと、そんなようなこととお話をさせていただいた記憶があります。

この市民連邦が発足した当時、90年代、あるいは2000年当初ぐらいまでは、まだリサイクルがちょうど始まった頃ですね。21世紀になって容り法が全面施行され、いろいろな関連のリサイクル法が、新しい法律ができというのが、ちょうど2000年ありますので、そういうような時代状況がありました。あれから20年以上経ってですね、ずいぶんいろいろな状況が変わってきて、我々もごみだけではないと言い方が変ですが、そのごみから始まった我々の取り組みの幅も、もっといろいろなことを考えないといけない時代になってきたなと、そういう気がいたします。

第四次循環型社会形成推進基本計画（2018年）6月閣議決定

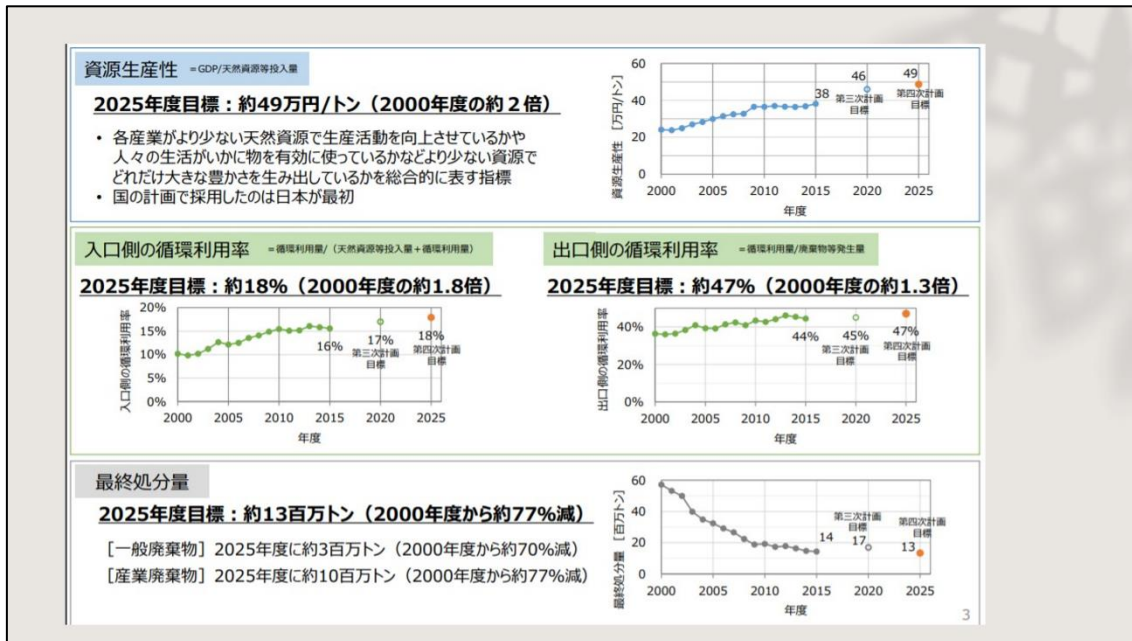


これは2018年に閣議決定をされた循環型社会形成推進基本計画なのですが、この循環基本法が2000年にできた時の一番の目的は、日本中で廃棄物の処分場が逼迫をされていて、だからごみをちゃんとリサイクルすることと、適正な処理体制を整えることで、処分場の逼迫を何とかしなければいけないということでした。改めてこの第4次計画を見ると、今まで見たことがないようなキーワードがいっぱい並んでいるんですね。一つは災害廃棄物というのがあります。これは前の計画にもありましたが、ちょうど今年、間もなく東北の震災から10年ですね。95年には阪神淡路大震災もありましたが、そういうことで災害廃棄物の処理というの、循環型の計画の中に盛り込まれました。

それから、国際的な資源循環体制というもの。これも前からずっと言われている話ではありますが、まさに今日お話があったように、中国のような大きなマーケットになっていたところが輸入を規制するという事態になって、中国頼みのリサイクルというのが成り立たなくなってきました。中国の禁輸問題というのは、世界中のリサイクルに影響しています。

もともと我が国の法律では、廃棄物の処理は国内処理が原則で、いかにリサイクル可能な資源であっても国内でちゃんと循環利用せよというのが法律にも規定してあることです。余ったから輸出するという考え方では駄目だよというのが、本来であったわけですが。

それから、多種多様な地域循環共生圏という言葉が今回出てきています。この考え方は多摩地域として目指すべき方向と言いますか、そういうものを含んでいるのではないかなという気がしております。



それから、従来の計画と同じように、目標が設定されております。結構行っているところまで行っているねという評価もありますが、資源生産性を2倍に上げようとか、循環利用率をもうちょっと上げようとか指標が設定されています。最終処分する量はすごく減って、今までの政策の成果だという言い方がされております。

多摩地域では二つ塚処分場にエコセメントの施設ができ、それから東京都市長会の方で2000年ぐらいですかね、ごみの有料化の決議という方針が出されて、2003年、4年頃から各市がごみの有料化を導入し始めました。また各自治体から処分場に持ち込む量の上限を決めて、それを超えたら課徴金を取るとか、非常に画期的な政策を取り入れて、それはとても大きな成果です。そういうことも含めて、多摩地域は循環型の政策が全国的に見ても進んでいると申し上げたわけですが、そういう状況がありました。

で、大体そのごみをいかに処理をするかとかですね。それからどうやってリサイクルするために集めるかといったことに関しては、だいぶ目指す方向に、我々市民が期待をしていたことも含めてですね、いい方向に進んでいるなと思います。焼却施設ができなくて・・・という自治体もありましたが、その問題も解決をし、そういう意味では適正処理に向けての体制はある程度整ったというのが、今の多摩地域の状況だろうと思います。

多種多様な地域循環共生圏形成による地域活性化

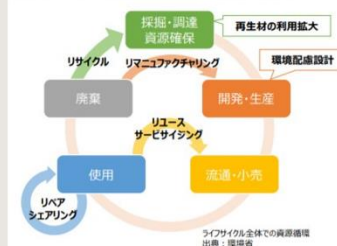
- ✓ 循環資源、再生可能資源、ストック資源を活用し、地域の資源生産性の向上、 生物多様性の確保、低炭素化、地域の活性化等
- ✓ 災害に強い地域でコンパクトで強靱なまちづくり

ライフサイクル全体での徹底的な資源循環

循環経済（サーキュラー・エコノミー）

- ✓ 「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニアな経済（線形経済）に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済
- ✓ シェアリングやサブスクリプション等の新しいビジネスモデル
- ✓ 静脈産業にデジタル技術の導入

○シェアリング等の2Rビジネスの促進、評価



そういう状況を踏まえて、次の方向に、次の一手を踏み出さなければいけないということですね。循環型社会計画では多種多様な地域循環共生圏という考え方が示されています。ここで具体的にいろいろな事例が挙がっていますが、バイオマスの利用だとか、地域の資源をうまく活用するとか、ごみ処理にお金を消費するだけでなく、循環型の経済活動をめざして地域の活性化につなげていこうというのが新しい一つの方向性だと思います。

先ほどの古着の話で言うと、いろいろなリサイクルショップとかありますが、ああいいうものをもちょっとネットワークするとかですね。そういったような活動もあるかもしれない。多摩地域には農地があるので、いろいろバイオマスを使って農地に還元するということもあり得るかもしれません。我々の身近な生活の中で出てくるものを、地域の中でどううまく使っていくのかということも。それによって小さなビジネスが生まれる。そういうことが期待されるころだろうと思います。

それから、最近よく出てくる言葉として「サーキュラーエコノミー」があります。これも何だかよく分かったような分からないような言葉ですが、「循環経済」と言われています。リサイクルやリユースの仕組みを回すために税金を使ったりマイナスの費用をかけるのではなく、市場のメカニズムの中で自然に循環するような経済社会の仕組みをつくっていくということで、EUがこういうことをポリシーとして進めていくのだと言い出して、企業もこれを考えないと駄目なんだということになっています。ものすごく目新しく感じますが、当たり前といえば当たり前のことですが、あらゆる製品、サービスに対してこういう考え方が必要とされるということが新しい考え方として受け止められているわけです。そきほどのお話の中でリサイクルするためのコストの問題

が古紙でもボロでも出てきましたが、そういうものがちゃんと経済の活動の中に組み込まれるような形。そういうものを作っていくというのが循環経済、サーキュラーエコノミーという考え方です。

その中で新しい考え方としては、シェアリングというのがあります。私の事務所は虎ノ門ヒルズの近くにあるのですが、周りに結構レンタルの自転車がありまして、大きなビルの1階のちょっとしたスペースにあちこち置いてあるんですね。いろいろなオフィスの人が結構みんな便利に使っています。また、私の知り合いの大学の先生は車を持たない。近くにパーキングがあって、そこで必要な時に車を借りるということです。近くにそういうサービスがあると、所有しなくても必要なときに借りればよいということになります。結果的にはモノの生産は減って資源の消費も減る。大量生産、大量消費から、サービスを買うという時代になりつつあるということでしょうか。他にもこういうシェアリングサービスというのが結構できています。持たなくても一緒に使うという考え方ですね。

それからサブスクリプションというのも一つの新しい仕組みですよ。毎月定額で必要なサービスを買う。モノではなくてサービスを買うというビジネスです。さっき古着の話がありましたが、毎日か分かりませんが、洋服をレンタルで配達してくれるんですね。自分で服を選ぶ心配がないとか、そういう洋服のサブスクリプションサービスもあります。

我々、リサイクルということにずいぶん長いこと関心を持って、いろいろな民間でやっているところとお付き合いをしてきましたが、もう少しこういう新しい技術とかサービスといったものを導入する、応用する、そんなことも一つの活動として考えられるのではないかなという気もしています。

例えば、今日松本さんから瓶の話がありました。今一升瓶というのは家ではほとんど皆さん飲まなくなっていますよね。従ってリユース率がどんどん少なくなっていて、7割近くまで減ってしまっているのですが、こういう瓶のリユース。全然日本では珍しいことでも何でもないので、最近アメリカの会社がビジネスとしてやり始めています。飲料や食品、化粧品などをちょっとおしゃれな金属製の容器などを開発して、それを宅配をしたり使った容器は回収するといったリユースのモデルを作って、日本にも参入してやっているということをこの間テレビでもやっていました。

それ自体は目新しいことでは必ずしもなくて、日本で言えば牛乳を配達をしてもらって瓶を引き取ってもらうとか、酒屋さんがP箱に入れたビールを持ってきて、それを回収してもらうとかですね。そういうようなモデルと同じように思えるのですが、それをもう1回リニューアルしてみると新しいものに見える。そこに少しデジタル技術が使われて、お客さんのニーズとサービス提供側とのマッチングを効率的にやるとか、そんなようなことが行われています。そういう新しい動きにマスコミなんかも着目をしていて、ビジネスの世界の中でもずいぶん関心を持たれているようです。

我々市民にはそんな大きなビジネスにはなかなか目が行きませんが、先ほど申し上げたようにスモールビジネスですね。地域の中で循環型のコミュニティビジネスといったことは可能性があるのではないかなという気もしています。ビジネスの分野まで市民連邦として踏み出すかどうかはなかなか難しい問題がありますが、今までのようにごみをどうするかということだけではなくて、サーキュラーエコノミーといった視点を持って、いろいろな関係主体とコラボしていくという、少なくともそういうような方向性・視点は必要だろうということです。



で、これも松本さんから出てきました。サステナブルデベロップメントゴールズ、SDGs です。このロゴは何が書いてあるのかよく分からないという話もありますが、たくさん目標が掲げられています。重要なことはこういう目標が明示されたことで、自分たちがやっていることがどういうところに関係するのかというのを考える、見える化する、そういうために非常にいいツールだということと言えます。

ごみの問題で言うと、「作る責任、使う責任」といったこともあります。プラスチックの問題は海とも関係する。あるいは、食物の話は、飢餓のテーマとも関係するとかです。そういうように、一つひとつ自分たちの行動が地球の持続可能性とどう関係するのか、SDGs に掲げられたいろいろな目標の障害になっているものと自分の行動を結び付けて考えて、自分たちの行動を見直していきましょうというのが狙いでだと思います。

多摩地域では SDGs 未来都市に日野市がなっていますね。プラスチックスマート宣言というのが出されています。豊島区は国際アートカルチャー都市。何かと思ったら、

手塚治虫さんがいた、漫画家がいっぱいいたというのが活動の根拠のようであります。そういうものを通して持続可能なまちづくりを推し進めていこうということを提案されてやっておられます。我々も多摩地域全体をですね、こういう SDGs といった観点で捉え直した時に、これからどんなことができるのだろうかということを、本当はこれをとことんやりたいところですが、こういうことを話し合いをしないといけないねというようなことを問題提起として投げ掛けてまとめということにさせていただきたいと思います。

会場に皆さんがいっぱいいて、挙手をしていただいて、発言をしていただいて、あるいはワークショップをしてというのが毎年やってきたわけですが、今年はコロナでそういうことが叶いませんでした。大変つたない整理で恐縮ですが、以上で私のまとめを終わらせていただきます。どうもありがとうございました。